

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>塚野 州一 (つかの しゅういち)</p>	<p>所属</p>	<p>立正大学心理学部</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>日本心理学会 自己調整学習研究会</p>		
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください) 会員 12名 (うち認定心理士 2名) 非会員 4名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 ①第3回研究集会 2009年3月27, 28日 於: 立正大学大崎校舎 議題 1) 活動報告, 2) 会計報告 (日本心理学会助成金の使途を含む), 3) 出版計画, 4) 今後の活動について, 5) 最新の研究論文紹介と検討 (3月27日) <取り上げた論文> Charlotte Dignath, Gerhard Buettner, Hans-Peter Langfeldt “How can primary school students learn self-regulated learning strategies most effectively? A meta-analysis on self-regulation training programmes” Educational Research Review 3(2008) 101-129. <発表者と担当内容> 伊藤崇達 (愛知教育大学) 「序論—各モデルの紹介」 村山航 (日本学術振興会・東京工業大学) 「方法—メタ分析の説明」 田中瑛津子 (東京大学大学院教育学研究科) 「結果」 金山富貴子 (立正大学) 「討論」 岡田いづみ (早稲田大学大学院教育学研究科) 「コメント」 植阪友理 (日本学術振興会・東京工業大学) 「関連研究の紹介」 6) 研究報告 (3月28日) 篠ヶ谷圭太 (東京大学大学院教育学研究科) 「学習方略研究の問題点と今後の展望—学習サイクルの視点から—」</p> <p>②出版企画 「日本における自己調整学習研究の現状と課題」: 全体の構成, 出版社選定と交渉。</p> <p>3) 今後の活動 ①講演会企画 「日本における自己調整学習研究の歴史的展開」辰野千寿 (日本応用教育研究所) ②日本教育心理学会第51回総会におけるシンポジウムの企画 「自己調整学習研究の新たな展開 —学習者の動機づけと認知の関連の統合的理解に向けて—」 企画・司会 瀬尾 美紀子 (相模女子大学) 企画 中谷 素之 (大阪大学) 伊藤 崇達 (愛知教育大学) 塚野 州一 (立正大学) 話題提供者 岡田 いづみ (早稲田大学) 植阪 友理 (日本学術振興会・東京工業大学) 岡田 涼 (日本学術振興会・名古屋大学) 指定討論者 市川 伸一 (東京大学) 中谷 素之 (大阪大学)</p>		